

一九七八年三月二十九日 (p.387—p.406)

『ミシェル・フーコー講義集成〈7〉 コレージュ・ド・フランス講義 1977-1978 年度
「安全・領土・人口」』 ミシェル・フーコー, 高桑 和巳訳, 筑摩書房 (2007)

新しい統治術の新しさ「相対的な力場」について (p.387-p.388, l.10)

- 前回の講義では、新しい統治術が主権の機能・属性・任務の一つになったということ（第一点）を示した(p.387, l.2-3)
- 統治術は十六世紀末から十七世紀初頭以降、……**統治術は相対的な力場**において展開される。(p.387, l.7-p.388, l.3)
- 相対的な力場において展開されるというのは、具体的には**政治テクノロジーに関する二つの大きな総体**を設置するということ (p.388, l.4)
- 一つは前回お話ししたもの、……諸国家間のさまざまな力の構成や相殺を組織・整備する技術です。その組織・整備は二つの道具立てによって行われます。一つは、多国間の恒常的外交であり、もう一つは職としての軍隊の組織です。(p.388, l.4-8)
- 第二の大いなるテクノロジー的総体は……当時「ポリス」と呼ばれていたもの (p.388, l.10)

「ポリス」について三つの指摘 (p.388, l.10- p.395, l.10)

- 「ポリス」という単語には十七世紀から十八世紀末にかけて、私たちが今了解しているような意味とはまったく異なる意味があった。(p.388, l.12-13)
- この「内政 (ポリス)」について三点指摘したい (p.388, l.14)

- **第一**は……この単語（「ポリス」）の意味(p.388, l.15)

・十五—十六世紀

①公的權威によって支配されている共同体・団体の形式。国家（レピュブリック）と**公共体（ポリス）**が結びつけられる。(p.388, l.15- p.389, l.1)

②公的權威のもとでそのような共同体を支配するさまざまな行為の総体。「**公共行為（ポリス）**と支配（レジマン）」。「レジマン」とは「公共行為（ポリス）」に関連づけられた支配・統治の仕方 (p.389, l.1-4)

③良い統治の結果 (p.389, l.5)

・十七世紀以降

→良い国家秩序を維持しつつ国力を増強しうる諸手段の総体が「**内政（ポリス）**」と呼ばれ始めるのです。(p.389, l.7-10)

<それまでの「内政」を表す言葉>

・テュルケ・ド・マイエルヌ『貴族民主主義的君主制』(1611) やホーヘンタール (1776) のテキスト = 「壮麗さ」という単語 (p.389, 1.11- 16)

・18 世紀半ば、フォン・ユスティ『内政の一般的諸要素』の定義 = 内政とは「国力を堅固たらしめ増強することにたずさわり、国力の善用に務める」。 (p.390, 1.1- 5)

- **第二**点は、十七ー十八世紀に見られたこの伝統的・規準的な内政の定義と、ヨーロッパのバランスの均衡に関する諸問題のあいだに見られる関係がどれほど緊密なものかということ (p.390, 1.6-7)

=政治テクノロジーに関する二つの大きな総体、「諸国家間のさまざまな力の構成や相殺を組織・整備する技術」と「ポリス」の緊密な関係性について

①形態上の関係 (p.390, 1.7-15)

ヨーロッパの均衡 (バランスに関するあの外交的・軍事的な技術) とは……それぞれに固有の発展に従って増大しようとする、さまざまに異なる多様な力の間で均衡を維持するというもの。内政もこれと同じく (逆の意味で)、国力 (一国家の持つ諸力) を、良い国家秩序を維持しつつ、最大限に増強するやり方。

②条件づけに関する関係 (p.390, 1.16- p.391, 1.7)

ヨーロッパ均衡において、ある国家が (それが自国でなくても) 悪い内政をもっていると、不均衡という現象が起きてしまう。他国の内政についても、その内政が良いものか見張っていなければならない。ヨーロッパ均衡がいわば諸国家間の内政として、あるいは法として機能し始める。一八一五年、ウィーン条約と神聖同盟政策。(p.391, 1.3-1.7)

③道具立てに関する関係 (p.390, 1.7- p.392, 1.4)

両者に共通の道具 = **統計学**

→ヨーロッパ均衡の維持には、各国が自らの国力を認識し、各国が自国以外の国家の国力を見積もる必要がある。一国家の構成的な力 (人口・軍・天然資源・生産・通商・通貨流通など) を読解する原則。

→統計学は内政によって必要とされるが、内政によって可能になる。内政と統計学は互いに互いを条件とする。

統計学とは、国家に関する国家の知ですが、それは当の国家自体に関する知でもあり、他の諸国家に関する知でもある。その限りで、統計学は二つのテクノロジーの総体 (「諸国家間のさまざまな力の構成や相殺を組織・整備する技術」と「ポリス」) の蝶番 (つなぎめ) のところに見当たるのです。(p.392, 1.1-4)

④通商の問題(p.392, 1.6)→次回の講義にて

- **第三**の指摘は……内政という企図は、それぞれに異なる諸国家において、同じ形式、同じ理論的骨組みを取ることにはもちろんなかったし、同じ道具を用いるということもなかったということ (p.392, l.7-10)

① イタリア (p.392, l.16-p.393, l.13)

内政は制度としても、分析・考察の形式としても見当たらない。複数の力からなる総体であり、さまざまな力からのあいだで一つの均衡を打ち立てなければならない。イタリアは内政国家ではなく外交国家になった。

② ドイツ (p.393, l.14-p.394, l.18)

内政の過剰問題化、つまり国力増強メカニズムとしての内政のあるべき姿の強烈的な理論的・実践的発展。ヴェストファーレン条約後、国家的実験にとって特権的な空間を構成した。大学が国力の発展を確保すべき行政担当者の養成の場、また国力増強に用いるべき諸技術に関する考察の場。内政学の誕生。

③ フランス (p.394, l.19- p.395, l.10)

領土の統一性、君主制の中央集権化、行政といったものが迅速かつ早期に発達したために……内政は行政実践の内部自体において、しかし理論・システム・概念なしで構想された。これらは行政のまわりをうろついている人々によるもので、内政国家という概念さえなかった。

内政の目標「国力としての人間活動」 (p.395, l.11-p.399, l.12)

- 内政の一般目標が、国家の秩序事態が危うくならないのみならず強化されるものだとすると、その内政が現実に携わるものは何か? (p.395, l.11- 13)
- テュルケ・ド・マイエルヌ『貴族民主主義的君主制』(1611) (p.395, l.15- p.397, l.14)
内政とは「国家に装飾・形式・壮麗さをもたらさうるあらゆるもの」と定義。内政とは統治術全体のことを指す。つまり統治術と内政を行使するということとは同じことであり、内政を実際に行使するには「あらゆる良い統治には四つの大官使がいなければならない」。

(四つ＝司法長官・元帥・財政長官・「内政の保守長官・改革長官」)

→人民のあいだに「謙讓・慈悲・忠誠・精勤・儉約の独特な実践」を維持する役割)

つまり以下テュルケ・ド・マイエルヌが思う内政が実際にたずさわってくる部分について

① 「内政の保守長官」の配下には地方の「内政事務局」が属する。

- ・第一に**子供の教育**にたずさわる。文字の学習(王国において機能を行使するのに必要)、敬虔さの学習、武器の扱いの学習 (p.396, l.11-12)

・各人の職業にもたずさわる。成人男性は内政事務局に出頭し、人生においてどのようなタイプの職に就きたいかなど、何をしたいのか言わなければならない。そして職業選択、生き方の選択とともに名簿に記載される。記載されないものは市民として扱われず「ごろつきで、名誉を欠いた、人民のクズ」と見做されなければならない。(p.396,1.15-p.397,1.1)

②「慈善事務局」が属する。(p.397,1.2-9)

健全な貧民には労働を与え（というより労働に就くように強制し）、病人や障害者には手当を与える。疫病や感染の時に（のみならず常時）公衆衛生にたずさわりもする。事故も引き受ける。火事・氾濫・洪水など貧困化の原因たりうるあらゆるものを引き受ける。金銭を貸し「高利貸しによる掠奪」から人々を守る。

（グローバル化した現代でも考えられている。SDGs? 国連?）

③商人を引き受ける事務局が属する。(p.397,1.10-11)

④領地事務局が属する。(p.397,1.12-14)

- テュルケ・ド・マイエルヌの企図からわかること (p.397,1.16- p.398,1.22)

①統治全体と同一化される内政が、国家の他の三つの機能（司法・軍・財政）の前にある一機能として現れる。(p.397,1.16-17)

②改革長官は特に諸個人の教育と職業（職業化）に特に目を向ける。ここにあるのは人間たち自体に関する制御・決定・拘束からなる総体。(p.398,1.1-17)

テュルケ・ド・マイエルヌ曰く「内政にとって重要なのは（伝統的に重要とされてきた）身分の違いではなく、職業の違い」であり……「人間を真の臣民と」すること、人間をまさに一つの活動を持ち、またその活動がその人間の完徳を特徴づけるべき（従って特化の完徳を可能にする）ものとして「自分の専心する何ものかへ」と向かう真の臣民とすべきこと、これこそが、この時以降「内政」と呼ばれるものの持つ根本的な、また最も特徴的な要素の一つだと思えます。(p.398,1.12- 22)

- 内政が狙いとするのは国家と関係を持つものとしての人間の活動(p.398,1.21- p.399,1.1)

伝統的構想

→人間の身分、人間の持つ美德、服従、勤勉であることが重要。国家の質は国家の諸要素の質の良さに依存していた。(p.399,1.1-4)

新しい構想（内政国家の関心）

→人間たちが何をしているか、彼らの活動、彼らの「職業」が重要。(p.399,1.8)

*「内政に関して最も耳を傾けられる人間とは、厳密な体制によって強盗や泥棒を絶滅させるものではなく（*伝統的構想*）、統治の関わり合いになってしまったそのものたちに職業を与え、そのようなことがもはや起こらないようにする者（*内政国家*）である」。(p.399注より)

- つまり内政の目標とは、国力の発展における示唆的要素を成しうるものとして人間たちの活層を制御し引き受けるということなのです。(p.399, l.9)
- **国力の構成要素としての人間活動**です。(p.399, l.11-12)

内政が引き受ける対象について (p.399, l.13-p.403, l.14)

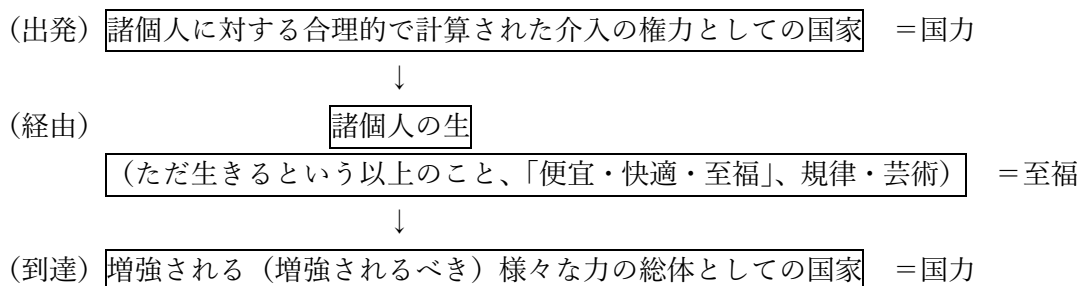
- 内政は、この人間活動が実際に国家（国力とその発展）に統合されるために必要十分な全てのものを道具として手に入れるのでなければならず、……国家に実際に有用なしかたでその活動を刺激し、規定し、方向づけることができるようにするのでなければならぬ。(p.399, l.14- p.400, l.2)
- 人間たちの活動から出発しその活動を通じてなされる、**国家にとっての有用性の創造**なのです。職業・活動（人間たちの行い）から出発して、**公的有用性が創造**される。(p.400, l.2- 3)
- **第一**に内政は**人間たちの数(市民の数)**を引き受けなければならぬとなります (p.400, l.6)
- 国力が住民の数によって決まるといふ説・断言 (p.400, l.12)
フルリ神父「生きている、健康な、平和な人間が豊富にいないければ、正義を行うことも、戦争を行うことも、財政状態を向上させることもできない。」
- 人口が占める領土の持つ資源・能力に対する、人口の数量的発展 (p.401, l.2-3)
→人口の概念
- **第二**は**生活必需品 (食糧)**です。(p.401, l.5)
- 人間たちがいるだけでは十分ではなく、さらにその人間たちが生きられなければならぬからです。(p.401, l.5-6)
- この内政目標は……**農業政策 (農地改革など……)**を含意しています。(p.401, l.10)
- 物品の商品化や流通、食糧難に備えてなされる備蓄など正確な制御。=**穀物内政** (p.401, l.10-11)
→食糧難の話
- **第三**の目標は**健康**という問題です。(p.401, l.15)
- 万人の健康はこれ以降、内政にとっての恒常的な配慮と介入の対象となっていく。
(p.401, l.21- p.402, l.1)
- 都市では特に空気、換気、風通しがそれにあたります。(p.402, l.2)
- 健康に関する様々な原則・配慮に向けて整除され従属させられた新たな設備・新たな都市空間を伴う一大政策が行われることとなります。(p.402, l.3-4)
→三密、「新しい生活様式」、自粛 都市の問題

- 第四の対象は人間たちの活動を見張る（ということ）です。（p.402, 1.7）
- 労働できるものを全て労働につかせるということ、……手当は障害者の必要に対してのみ給付する。（p.402, 1.9-10）
- 必要な（国家が必要とする）様々な職が実際に実践されているか見張り、国の利益になるようなモデルに従って生産物が制作されているか見張るということ（p.402, 1.12-13）
- あらゆる職に対してなされるあの統制が生じてきます。（p.402, 1.13）
→あの統制???後者は現代で言うところのGDPとか?
- 第五の対象は**流通**です。（p.402, 1.15）
- 物質的な道具。流通空間は内政にとって特権的な対象なのです。（p.402, 1.17-18）
- 王国内で（国境外で）人間や事物を流通させることを可能にする統制・制約・制限からなる総体をもさす。（p.402, 1.20-p.403, 1.1）
- 内政の根本的対象となるものは、いわば、人間たちの共存の形式全体です。……このような類の**社会性**こそ、内政が引き受けるべきとされている当のものです。（p.403, 1.5-9）
- 18世紀の理論家たちは、内政が引き受ける当のものとは**社会**であると口にするようになります。（p.403, 1.10）→人間たちの共存と交流（p.403, 1.13）

「人間論的システム」による内政の、国力と個人の至福という循環（p.403, 1.15-p.405, 1.20）

- 内政は人間たちが生きること（多数で生きること）を確保し、人間たちが生きるための食糧を手に入れている（あまり死なないだけのもの、大量に死ぬことがないだけのもの）ということを確認しなければならない。人間たちの活動において単純な生存異常のもの全てが事実うまくいき、生産され配分され流通させられ、それによって国家がそこから力を実際に引き出すことができるようになるということも確保しなければならない。（p.403, 1.16-20）
→この経済的・社会的システムを「**人間論的システム**」（p.403, 1.21）
このシステムにこそ内政は挿入されるのです。（p.404, 1.3）
- 内政とは、生きること、ただ生きるというより少しばかりましに生きること、共存すること、交流すること。このようなことが実際に国力へと転換可能（国力の構成・増強にとって有用）なものとなるということを確認する様々な技術（介入・手段）からなる総体のことです。（p.404, 1.3-7）

- 内政には一つの**循環**がある。(p.404, 1.8-11)



- 諸個人の生 (ただ生きるというよりはましなこと)
→ 当時人間たちの「便宜・快適・至福」と呼ばれていたもの (p.404, 1.12)
- つまりこの循環は、内政が国力と諸個人の至福とを互いに連結するように計らうのです。
……つまり**人間たちの幸福を国力自体にすること**です。(p.403, 1.14-17)
- ドゥラマール「(内政の唯一の対象とは) 人間を、この生において享受しうる限りの完璧な至福へと操動することに存する」(p.404, 1.20)
- ホーエンタール「(内政とは) 国家の壮麗さと個々人の外的な至福」を確保する諸手段のなす総体 (p.405, 1.1)
- フォン・ユスティ→国力を堅固たらしめ増強し、国力の善用をおこない、臣民の幸福をもたらすこと。(p.405, 1.7-8)
- モンクレティアン→内政の携わるものをはるかにうまく表す単語「規律や芸術から安楽を引き出す」(p.405, 1.16)
- 存在から安楽へと向かうもの、(諸個人の安楽を国力とするために) 存在を超えたところに安楽を生産しうるあらゆるもの、これこそが内政の目標であると思われます。(p.405, 1.19-20)

次回の講義で話すこと (p.406)

- この内政の一般的定義を出発点として、これがどのように批判されたか (p.406, 1.3)
- 十八世紀にどのようにここから人は離れていったか (p.406, 1.4)
- 政治経済学がどのようにここから誕生しえたか (p.406, 1.5)
- 人口という特有の問題がどのようにしてここから離れていったか (p.406, 1.5)
- 「安全と人口」という問題に立ち戻ることになる (p.406, 1.6)

<コメント>

・「人口→食糧→健康→労働→流通」という内政の対象は、マズローの欲求階級みたいに、順序や重要度合いがあるということか。そうだとしたら人口減少は大問題になる。人口減少に慌てる国家、社会の様子に納得する。

・生きるということ、社会に存在するということの意味の形骸化が起きているような気がした。内政が引き受けるべき（つまり市民が実践すべき）とする「社会性」が気になった。社会性＝国家にとって都合の良い羊性？何だかお利口さんなペットのワンちゃんみたい。この社会性が身につけられないと、市民になれないというシステムは後の「人口/人民/それ以外」という概念に繋がっているのか？

・「人間論的システム」について。この講義集の最初の方で言っていた、現代国家の社会への介入の仕方は「あるがまま」だという部分と繋がっていると思った。多少の人数が死んでも、全体のバランスが崩れなければオッケーというスタンスは、統治術が総体的な力場に存在しているからなのかもしれない。

・我々の幸福が国力につながるということについて。まさに政府の推奨する Dx による便利で快適な生活やマイナンバー制度によるスマート化は、それにあたるのかもしれない。そう考えると、私たちは国家から自由と引き換えに幸福をもらっていると言っても良いのではないか（言い過ぎ……？）

・幸福と国力の関係について。素直に考えれば、この循環では、国力も上がって幸福も得られてウィンウィンになる。しかし、国力が下がったり人々が不幸に陥ったりしたら終焉の世界ということ……？現代はその問題に直面しているのではないか。（不景気やコロナ）